



町長日誌

No.259

町長日誌の第 259 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を
町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

5月21日 (水曜日) AM7:45

ゴールデンウィークが終わり、1 週間ほど開花が遅れた桜もいつの間にか散ってしまい、私たちの周囲は新緑に覆われています。雪不足から干ばつや本州で連続した山火事などの心配をしていましたが一先ず安心しています。道端の草の伸びが例年より良いように思います。あと 2 週間もすれば一番牧草の収穫作業が始まります。今日はこれから公共牧野に若牛約 200 頭が放牧されます。これは各農家の育成牛を 10 月末まで預かり放牧して飼育するので、北興と宇津の間に広大な放牧地があります。この牧野は町営で管理を農協に委託しています。

春の風物詩ともいえる毛ガニ漁は沙留・雄武が管内では最も漁獲割量が多いのですが今年は沙留の漁獲が特に多いとのこと。また、ニシンの回遊がオホーツク海に集中していて結構な水揚げがあり幸先の良いスタートとなりました。

4月30日 (水曜日)

昨年、8 月 19 日から 12 日間の日程で北海道民がブラジル移住開始 105 周年の記念行事に北海道訪問団の一員として参加したのですが、その時にお会いした鶴 勝(つる まさる)さんご夫妻が来町されました。鶴さんは昭和 15 年生まれで 84 歳で、西興部村中藻のご出身で興部高校に 2 年間在籍して 3 年生の時に家族でブラジルに移住入植された方です。養鶏業で成功され北海道との交流事業に積極的に貢献されてきた方です。84 歳とご高齢ではありますが大変お元気な方で興部高校に通った 2 年間の思い出話などを沢山していただきました。このブラジル移住は昭和 48 (1973) 年まで続いた事業です。農場での作業に耐え切れず断念した人も多いのですが鶴さんの場合は叔父さんが先に移住していて農地や養鶏などの準備がされたところに移住したとのこと。「私は楽な移住でした。」とお話していましたが、言葉はもとより大変なご苦労があった事は言うまでもありません。

5月20日 (火曜日)

午後 4 時から興部中学校生徒会役員(安東瑚那さん、高橋虹さん、加藤愛虹さん、藤枝由愛さん、芝彩仁さん) 5 名の皆さんが町長室にられました。訪問の理由は、毎年 6 月に行っている町長講話の内容についての要望と興部町には管内で唯一「町のゆるキャラ」が無いことから生徒会で 4 つのキャラクターを考えたので取り上げてほしいと言う事でした。このように生徒会が町長に直接要望をすることは今回が初めてでしたが、私も中学生の時生徒会長をしていて当時の河原町長にスクールバスの整備を要望したことを思い出しました。自分たちの考えていることを行動に移すことは結構大変なことだと思います。町長に会ったら何を話そう、どんなふうに説明しようか? などドキドキだったと思いますが、しっかりとお話をしてくださいました。必ずしも良い答えではなかったかもしれませんが、ゆるキャラについては「今後も一緒に考えていこう!」と申し上げました。中学生が真剣に町の PR や発展を考えている姿に嬉しさが込み上げてきた一時でした。

さて、6 月 1 日中学校を皮切りに小学校や保育所などの運動会が行われます。グラウンドに歓声が響き渡るのが待ち遠しいですね。6 月定例議会は 6 日 1 日を予定しています。国が進める年金制度改革や消費税などの税制改革、一向に下がらないおコメの値段そして 7 月には参議院選挙が予定されています。税制改革は町の予算にも大きく影響します。国は人間の体と同じように生き物ですから新陳代謝を繰り返します。古くなった細胞や皮膚などが新しくなるのと同じように更新や修理を繰り返し、インフラを保守し続けるのが行政の役目ですが過疎化が進むとこの新陳代謝が出来なくなります。本州のお米農家の平均年齢は 75 歳を超えています。山地帯で小さな田んぼを維持していた農家がどんどんコメ作りを止めていることがコメ不足の遠因なのです。中学生が夢をもって町の未来を考えることの出来る社会が続くよう努力しなければと思いました。では、また。



お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131 です。